

ダイバーシティ経営に関する
マネジメント・コントロール・システムの検討

郭 チャリ

帝塚山大学 経済経営学部

岸野 早希

九州大学 経済学研究院

劉 美玲

鹿児島大学 総合科学域総合教育学系

岡田 華奈

大阪経済大学 経営学部

2025 年 3 月

Tezukayama University
Research Institute for Economics and Business
7-1-1 Tezukayama, Nara 631-8501, Japan

ダイバーシティ経営に関する マネジメント・コントロール・システムの検討*

帝塚山大学 経済経営学部 郭 チャリ

九州大学 経済学研究院 岸野 早希

鹿児島大学 総合科学域総合教育学系 劉 美玲

大阪経済大学 経営学部 岡田 華奈

要旨

本研究ではダイバーシティ経営推進のためのマネジメント・コントロール・システム(MCS)デザインの構築とそれをもとにした企業事例の分析を行っている。近年、多くの企業において多様な人材の能力や特性をいかに活用し、企業価値の創造に繋げるかが共通の経営課題とされている。多様な人材を活かす経営を行うためには、人事管理システムのみならず包括的な視点が求められる。そこで本研究は、従業員の行動や活動を方向づけるための様々なMCSに着目した。Malmi and Brown (2008) の5つのコントロール(文化、計画、サイバネティック、報酬および管理)から成るフレームワークをもとに、経済産業省が公表した「ダイバーシティ 2.0 行動ガイドライン」の項目を整理し、ダイバーシティ経営推進のためのMCSデザインを構築した。さらに、構築したMCSのデザインと項目について、その有効性を検討するため、「新・ダイバーシティ経営企業100選」に選定された企業2社の文献調査とインタビュー調査を行った。その結果、すべてのMCSにおいて各社の取り組みが見られるが、報酬コントロールや管理コントロールについては、その取り組みのレベルが異なっていることが明らかになった。また、今後の展望として、分析で見られた同異の原因は何かを考察し、MCSデザインや質問票の有効性について検討する必要を示した。

* 本研究は科学研究費補助金(基盤研究(C) 23K01673)の助成を受けて行った研究成果の一部である。